

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23		
自己評価作成日	平成29年9月4日	評価結果市町村受理日	平成29年10月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022.kan=true&amp;JigyosyoCd=0170503445-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022.kan=true&amp;JigyosyoCd=0170503445-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成29年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達は、人的環境に配慮した活動を展開しております。介護者である私達も環境であると考え、日々実践に取り組んでおります。認知症の人達は、接してる私達の言葉かけ一つ、動作の一つで、その人の楽しさや喜びが悲しみに変わります。目の前の認知症の人が私達に送っているサインに気付かなければ、その人達に適したケアとは言えません。私達は、それを感じる心、読み取る力と適切なケアを考えながら、それらを展開し実践しております。私達は、利用者一人一人の事を常に心にとめて、人的環境に配慮した活動に力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の藻岩山麓近くの静かな住宅街にある2階建て、1ユニットのグループホームで、バス停から1分で、10分程坂を下ると大型ショッピングセンターがあり、買物に便利である。バスの便も多い。建物は、民家改造型の家庭的な造りで、職員の意見を取り入れて1、2階の両方にウォーターサーブを設置し、利用者が使いやすいコードレス掃除機も備えている。「住み慣れた地域での安心した暮らし」を含む3項目からなる事業所理念を全職員が理解して、理念に沿ったケアを実践している。地域との交流が盛んで、町内会長はボランティア活動に熱心で、事業所の行事には自らハーモニカ演奏や紙芝居を披露してくれる。近隣住民が、家庭菜園の野菜を届けてくれたり、「緊急時にはいつでも声をかけて欲しい」などの言葉がけがある。身体拘束をしないケアの実践に真摯に取り組み、マニュアルが整備されている。職員は、各自「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」11項目をよく理解し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。年1回、個別に利用者ごとのアルバムを作成し、家族にプレゼントして喜ばれている。利用者は、天候のよい時期には毎日散歩し、年3回程度、2～3人の利用者を車に乗せ、馴染みの場所をドライブしたり、買物や食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りの中や、月例の職員会議の中で、理念の意義を認識し、理念をもとに話し合い、実践につなげている。	地域密着を踏まえた「住み慣れた地域での安心した暮らし」を含む3項目からなる理念を、職員は良く理解している。管理者は、理念に沿ったケアの実践を意識して職員を指導しており、毎月の職員会議でも確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬期間は、外出する機会が少ない為、近所のボランティアによる楽器演奏会や、民謡会等を楽しみ、春から秋にかけては、近くのレストラン等へ出掛け、交流を深め地域の一員として日常生活を送っている。	町内会長がボランティア活動に熱心で、事業所の行事には自らハーモニカ演奏をし、紙芝居も見せてくれる。また、近隣住民が、家庭菜園で収穫した野菜を届けてくれる等の交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等に出席いただいている住民代表や、民生委員の方々を通して、認知症に対する悩み事の相談の他、直接来訪される方には、親切に相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議には利用者家族をはじめ、地域を代表するメンバーの方々に集まっていただき、施設側からの報告をすると共に、参加者からの意見やアドバイスをいただきながら、サービス向上に活かしている。	2か月毎に運営推進会議を開催し、町内会長、包括支援センター職員、民生委員、家族代表の参加を得て、行事報告や家族の意見や要望について話し合い、外部評価についても報告している。議事録も全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新や書類提出等で訪問し、パンフレット等、日頃のケアにつなげると共に、生活保護課の窓口にも出向く事が多く、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が区役所を毎月訪問し、担当窓口や生活保護課で情報交換している。掲示物やパンフレット等の関係資料をもれなく収集し、事業所のパンフレットも積極的に渡し、協力できることについて情報を提供している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り、寄り添いを徹底し、身体的はもちろんの事、言葉による拘束もしないケアに取り組み、定期的に身体拘束廃止マニュアル11項目を基準に職員会議の課題で取り上げ理解を深めている。	「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の11項目を職員の休憩室に掲示し、マニュアルも整備している。職員は各自、11項目のコピーをバインダー等に挟む等の工夫で内容をよく理解している。玄関は日中は施錠せず、鍵を掛けずに安全に暮らせる配慮を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待につながる言葉についても、100%排除するよう徹底している。理念の精神にそぐわないのが虐待だと全職員が一番認識しています。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を必要とするケースは、現在発生していないが、内部研修や新人者研修の研修項目で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約以前から面接を行い、何度か説明と理解をいただき、契約時に利用者、御家族に対し、契約の締結、解約等の重要事項は、事業主が詳細に説明し、理解、納得された上でサインをいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が、平均して月2.3回来訪されている為、現状を伝える事が容易であり、意見や要望を聞く事が出来る。又、家族と外出する時は、メモ帳を渡し、利用者との会話の中で聞かれた事等、自由に書く事が出来ます。	家族が訪問した際は、管理者や職員が家族の意見や要望を聞き、連絡ノートに記載して朝の申し送りで全職員が共有している。また、「介護支援経過」のコピーを全家族に送付している。年1回、個別に利用者のアルバムを作成し、家族にプレゼントしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや、毎月の職員の意見や、要望等述べる機会を作っている。又、会議に出席出来なかった場合は、議事録を確認していただき、個別でも意見や要望を聞いている。	管理者は、毎月の職員会議で職員の意見や要望を聞いている。また、朝夕の申し送りでも自由な意見交換ができる。最近では、職員の要望で、階ごとにウォーターサーバーを設置し、利用者用にコードレスの掃除機も購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がシフト作成をしており、職員の業務体制を把握している。希望休日も、本人の意向に沿って作成している。資格取得後は、給与等にも反映され、向上心を持って働ける様、最大限の努力に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修は、状況、勤務体制に合わせて行われている。又、それぞれに外部で学んできた事を内部研修に活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の交流会や会議等は、管理者だけでなく、職員も同行したり、代理出席する等、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人の望みや要望を聞き取り、安心して入所できる環境作りから担当職員を決め、情報を収集し、入所後の本人の安心安全を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の要望、不安を始め、御家族の要望や、困っている事等、入所後の御家族のかかわり方等、時間の許す限り、傾聴し、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が、今、必要とされている現状等を傾聴し、その中で、必要とされている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1ユニット9人の少人数の為、大家族の様な雰囲気の中で介護する側、される側という関係ではなく、常に側に誰かが寄り添っているのが、当たり前の空間を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の御家族も頻繁に来所され、レクの時の手伝いはもとより、利用者のお誕生会や外食レク等でも御家族も参加され、本人との絆を大切にしながら、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や、友人等が同区内に居住しており、気軽に来訪されている。又、外出先も昔から馴染みの場所に足を運んだり、外食先も馴染みの場所へ出掛けている。	入居年数が長い利用者が多く、家族以外の訪問者は少なくなってきたが、2名の利用者に毎年友人が訪問してくれるので、事業所全体で歓迎している。利用者は地元に住んでいた方が殆どなので、年2、3回、2～3人ずつ利用者の馴染みの場所をドライブしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	プライベートタイム以外は、利用者同志の居室は自由に行き来する事が出来、二階廊下にソファを置き、自由に談話出来るスペースを設け、孤立せず、利用者同志が関わり合う事が出来、孤立しがちな利用者には個別に対応している。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他施設に移動後も御家族の相談等も対応し、移動先にも顔を出す等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で自分の意向を表出できる方が多く、表情等も見逃さないようにしている。センター方式のアセスメントシートも定期的に見直し、変化を記入している。	前回の外部評価時の課題に対応し、利用者の状況が変化したときは、センター方式のアセスメントシートに追加情報を日付と一緒に記載し、定期的な見直しも実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境等、本人をはじめ、御家族や友人からも聞き取り、これまでの暮らしや習慣の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の過ごし方や、リズムを把握し、本人の有する能力、心身状態等、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意向や、家族の意向等を参考に職員全員でモニタリングを行い、3ヶ月ごとの短期目標や更新時の見直し等、本人の状態変化等、合わせてケアプランを作成している。	介護計画は3か月毎に見直している。家族の意見を取り入れながら全職員でモニタリングし、現状に添った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や活動、変化を毎日アセスメントシートに記録し、職員全員が、情報を共有している。介護計画も本人の状態に合わせ見直しを行い、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族一人一人の要望に応じて、通院介助や買い物、外出同行等、必要な支援には、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や民生委員の方など、定期的に訪れ、防災に関するアドバイスや施設の行事等のボランティア等を受けて下さる等、密接な資源となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関による月2回の往診を受けている。定期的な健康診断の時は、病院側の車の送迎などの支援を受けている。受診内容も記録し、毎月、医師の所見と支援経過を送付し、報告している。	かかりつけ医は自由に選択できる。現在は、全員が24時間対応可能な高齢者内科の往診を受けている。他に専門医にかかっている利用者には、希望に応じて通院支援を行っている。受診記録、連絡ノート、服薬情報等で情報を管理し全職員で共有している。	

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関が24時間対応の為、利用者一人一人が適切な受診や、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、情報を正確に伝え、定期的に見舞う等、利用者の状態や変化を把握し、出来るだけ早期に退院できるように病院との情報や相談に努め、退院後の支援体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の重要事項を説明する際、重度化した時の対応を説明している。施設生活が困難になった時や、医療行為が必要となった時は、適切に介護施設や医療機関と連携をとり対応している。	利用者が重度化し、事業所での対応が困難になった時は、協力医療機関の意見を参考に、事業所と連携している特別養護老人ホームに紹介が可能である。短期入所にも対応してもらえる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、救急救命の講習を終了し、各自が手帳を持ち歩き、施設内外でも役に立てるように、又、応急手当や初期対応等、定期的に防災訓練時に指導を受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の夜間想定避難訓練を消防職員の指導で行っている。又、防災対策マニュアルをベースに自然災害における具体的な対策についても消防署員の講話により、全職員が意識を高め、救急救命の講習も終了している。	職員は定期的に救急救命訓練を受講し、災害マニュアルも整備されているが、最近では地域住民が避難訓練に参加していない。災害時の備蓄品は、当初は物置に保管したが、現在修理中のため、早急に保存場所を確保する予定である。	地域住民の避難訓練への参加は、積極的な声掛けを継続的に行っていくことを期待したい。災害時の備蓄品は、地下にもスペースがあるので、現在、物置か地下のいずれかに決定する予定とのこと。職員の意見も聞きながら適切で安全な保管場所の整備を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しき仲にも礼儀ありという言葉通り、全職員が、一人一人の人格を尊重し、誇りを傷つけず、プライバシーを尊重したケアを実践している。	利用者への呼びかけは「さん」づけとし、対応で気づいた点があればお互いに注意している。個人記録は利用者から見えないように行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、表情や言動から不安や思い等、素早くキャッチし、外出先等でも、支援者が与えるのではなく、自己決定を第一に考え支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合を優先する事なく、一人一人の都合や体調に合わせ、日常生活全般に於いて、利用者の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日その日の身だしなみ等は、本人の好みを尊重し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、又、朝の挨拶を兼ねながら天気や、気温、季節の会話をはさみながら、自己決定できるよう支援している。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや体調に合わせたメニューを取り入れたり、月に数回、利用者の要望を聞き取り、好みの出前や外食レクでもメニューも自己決定し注文をする。おやつや盛りつけ等も利用者と一緒にやっている。	食材業者よりメニューと食材が提供されるが、利用者の好みや状態に応じて調理方法や味付けを変更している。利用者も配膳やテーブル拭きなどを手伝い、職員も一緒に同じ食事をとっている。月1回、全員で外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食、外注業者からメニューとカロリー計算された食材が届き、バランスのとれた食事を提供している。食事量や水分量も日々記録され共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、毎食後の口腔ケアや義歯洗浄後の保管まで徹底し、衛生面のケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員がトイレで排泄している。又、一人一人の能力や、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導の時は、周囲にも配慮し、プライドを傷つけない様、対応している。成功した時は、一緒に喜ぶ等、自信につながる様、支援している。	ほとんどの利用者は自力でトイレに行くことができ、夜間1名のみ誘導と介助をしている。声かけの際は羞恥心に配慮している。生活アセスメントシートに排泄状況を記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘がちな利用者には運動や、食事内容の変更、又、水分等も工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各利用者の入浴日は週2回の週間計画となっているが、一人一人の体調や皮膚の汚れ等を観察し、本人の状態に合わせた対応を行っている。又、利用者一人一人が好みのシャンプーや石鹸等を使い、入浴剤も季節に合わせた対応をしている。	週4日の入浴日を設け、午後の時間帯に各利用者が概ね週2回の入浴を行っており、その他にも希望に応じて入浴できるようにしている。個々に好みのシャンプーを使ったり、季節ごとに入浴剤を変えて、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせ、出来る限り本人の意向に合わせた対応をしている。日中はプライベートタイムを取り入れ、夜間は、入床時間も自己決定を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診時に利用者の状態を伝え、処方していただいている。又、副作用等に関しても、主治医や薬剤師から情報提供して頂き、薬の管理も徹底し、事故のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で自然に一人一人の生活歴や能力が活かされている。又、レクや外出、外食の面でも一人一人の人格を尊重した支援をしている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外気浴等、一人一人の体調や希望にそって支援している。又、御家族と出掛ける方も多く、施設でも外食や買い物等、月の行事以外でもドライブやおやつを食べに行く等、利用者の状態に合わせ支援しています。	天候の良い時期には毎日でも散歩が可能で、公園や郵便ポストの場所に行ったり、ベンチで外気浴をしている。毎月、全員で外食に行き、年2~3回はドライブにも出かけている。冬は大型ショッピングセンターに買物に出かける機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向で金銭の管理はホームでさせていただいているが、外食や買い物等では、本人がメニューの値段や買い物時の金額等、本人が決定し、お金を所持し、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は深夜以外は自由に居室で使用する事が出来るようにしている。手紙を出す事は少ないが、定期的に塗り絵葉書きを送っている。その際は、一人一人が切手を貼り、職員と一緒にポストに投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がいつでも集まり談話出来る共有のスペースがあり、テレビや新聞、雑誌等もいつでも自由に見られるよう開放している。又、二階にもソファを置き、雑談出来るようになっている。共有の場には浄水器も設置し、いつでも自由に飲水できるように工夫している。	共用空間は家庭的な作りで、歌の歌詞を大きく色紙で印刷して貼り出したり、利用者の写真を掲示している。新聞や書籍などが置かれ、家庭のように過ごすことができる。温度、湿度なども調整されている。また、2階にも寛げる場所を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に好きな場所で、気の合った利用者同士が、会話を楽しんだり、歌を唄ったり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所決定の際、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具等をお願いしている。利用者本人が置き場所や思い出の物を飾る等、自分らしい部屋をセッティングしている。	居室は、利用者がベッドやタンス、テレビ、時計など馴染みの品物を持ち込み、家と同じように過ごせる場所となっている。壁にも誕生日の色紙や利用者の切り絵作品など自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の能力に合わせ、掃除機からモップ掛けや整理整頓等、出来る事、分かる事を見極め、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		



目標達成計画

事業所名 グループホーム ポテタウン北の沢  
作成日：平成 29年 10月 18日  
市町村受理日：平成 29年 10月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域住民の避難訓練への参加は、積極的な声かけを継続的に行って行くことを期待したい。災害時の備蓄品は、地下にもスペースがあるので、現在、物置か地下のいずれかに決定するとの事。職員の意見も聞きながら、適切で安全な保管場所の整備を期待したい。	避難訓練を実施する際は、地域住民に積極的な声かけを継続的に行っていく。災害時の備品に関しては、物置に保管していたが、修理中のため、一ヶ所にまとめて置く事が出来なかったため保管場所を整備する。	次回訓練時より、積極的な声かけを継続的に行う。災害時の備蓄品の保管場所は職員の意見を反映させ地下室を保管場所と決定し整備完了した。	次回訓練日
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。